

地方民紀行鉄

銚子電気鉄道株式会社



個性的なものから
真面目なものまで、
さまざまな愛称が付けられた
銚子電鉄の駅。
愛称を声援にして、キャベツ畑を
緑の電車が走って行きます。

ゴトゴト、キュイキュイ、チリンチリン。朝の通勤通学が一段落着いた後、乗客もまばらな銚子電鉄の車内はしかし、音に溢れて何とも賑やか。ゴトゴトは、房総半島特有の強い風に車窓が揺れる音。キュイキュイは、2両編成の連結部分が電車の動きに合わせて立てる音。そして、車掌さんのカバンに付けられた、販売用の「切符お守りストラップ」がチリンチリンチリンチリン、鳴っている。

カサガミクロハエ、カミノケクロハエ？

銚子電鉄の銚子駅はJRの銚子駅とホームを共有。JRから乗り継ぐ場合、乗車券は、銚子駅を発券すると同時にチリンチリンと音を鳴らして車内を巡る車掌さんから購入する。

1日乗車券「弧廻手形DeJuxe」を受け取って、本日の行程を考える。乗車券に付いた特典は五つ、どうやって制覇しよう。近くにある特典から順番に巡るか、とりあえず終点の外川まで行くか。あれこれ思案の真つ最中、ふと車内アナウンスが耳に入る。

「カサガミクロハエ、カミノケクロハエ、カサガミクロハエです」。

今、何て？ 外を見ると、滑り込んだ駅の駅名表示は「髪毛黒生 かさがみくろはえ」。「髪毛黒生」と書いて「かさがみくろはえ」と読むのか、と思いかけて銚子電鉄の駅名愛称ネーミングライツを思い出す。「髪毛黒生」は笠上黒生駅の愛称だ。

他の駅名を調べてみると、本銚子駅は「ピ

ゲタ400年 玄蕃の里」、西海鹿島駅は「三ツ星お米マイスター 根本商店」、海鹿島駅は「とつばずれ」などなど。ネーミングライツを持っている企業がすぐに分かるものと、見当もつかないものがある。「髪毛黒生」は、頭髮関係の企業だろうか。「カサガミクロハエ、カミノケクロハエ」。ぼんやり聞いていると、どちらが本来の駅名なのか間違えそうなほど、なじんで聞こえる。

愛称に気をとられていると、総延長6.4kmの銚子電鉄はあっという間。降りる駅も、降りた後の行動も決まらないまま終点が近づき、「次は終点 外川、ありがとう、外川」「ご乗車ありがとうございました」。「ありがとう」は、外川駅の愛称。駅名表示は「ありがとう 感謝 ARIGATOU」。何だか盛んに感謝された気分で、外川駅到着。

外川駅に来たのだから、まずは特典で入館無料になる「銚電昭和ノスタルジー館」を見学しよう。さて、どこにあるのかと思ったら、ホームの端に停められた古い車両に「京葉東和薬品 銚電昭和ノスタルジー館」のヘッドマークを発見。そのすぐ上に、「本日は閉館いたしました」の表示も発見。残念。これで特典は残り四つ。そのうち三つが集まる犬吠駅は、外川駅の1駅手前。次の電車まで時間があるし、特典の一つ「地球の丸く見える丘展望館」は外川駅と犬吠駅の中間にある。気を取り直して、歩いて向かう。

強風注意

今朝の関東地方の天気予報は、「南からの

銚子電鉄

【ちょうしでんてつ】

銚子駅から外川駅まで9駅6.4kmを約20分ですぐ。ぬれ煎餅の販売や駅名愛称ネーミングライツなど、さまざまな取り組みを行っている。



銚電昭和ノスタルジー館は残念ながら見られず。

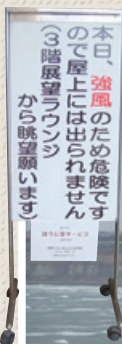


駅名表示には色々なバリエーションがある。





犬吠駅にあるお土産物売り場。その場でもぬれ煎餅を焼いている。



地球の丸く見える丘展望館からの景色。屋上に出不れなくても、迫力ある景色が見られる。

風が入り、気温を一気に押し上げるでしょう。だった。けれども、ここは房総半島でも屈指の強風エリア。海からの強風が、体感温度を一気に押し下げる。

強風から逃げるように丘に登り「地球の丸く見える丘展望館」にたどり着くと、「本日、強風のため危険です。のて屋上には出られません」とのこと。とはいえ、展望ラウンジの中からの見学でも、水平線が弧を描き、地球の丸さを十分感じられる景色が見られる。おまけに、海沿いに並び立つ風力発電の風車が、ぐるぐる回っているのも遠目に見えて、屋上「危険」なことも十分納得。

強風に負けて、周辺散策を早めに切り上げ犬吠駅へ。駅舎の2階にある「銚子写真館中井精也ギャラリー」を見学、ここも特典で入館無料。沿線のキャベツ畑や古い駅舎など、柔らかな雰囲気の写真が並ぶ中、たい焼きの写真を発見。観音駅で売っているたい焼き、これが食べたかったんだ。改札に戻って観音駅に向かう電車の時間を調べていると、駅員さんが「お煎餅、もらった？」と一声。特典で1枚無料のぬれ煎餅、もちろん忘れていませんとも。

銚子電鉄といえば、ぬれ煎餅の販売が有名。犬吠駅のお土産物売り場では、車で駅までやって来た観光客が、ぬれ煎餅を買って行く姿も見かけるほどの人気ぶり。売り場の一角では、売り子さんが煎餅を焼きつつ、次々試食も勧めてくれる。ほぼ全種類の試食をさせてもらい、無料の1枚に加え、大袋のぬれ煎餅も買い込んでから、観音駅に向けて出発。

鯛が金目か、やっぱりどっちも

銚子電鉄の中では大きい方になる観音駅の駅舎。そのかなりのスペースを占めているたい焼き屋さんは、ホームに降りれば、すぐ目の前。カウンターには、小倉あん、クリーム、チョココレート、3種類のたい焼きに並んで、「新発売！お好み鯛焼き金目焼き」のお品書き。金目焼き？ 新発売なら食べておかないと。予定変更、「金目焼きください」。

手渡された金目焼きの見た目は、こんがり色黒のたい焼き。かじれば、キャベツやマヨネーズ、紅生姜などがたっぷり入った、まぎれもなくお好み焼き。たい焼きの形をしているおかげで、片手でも立ったままでも食べられる。B級グルメは素晴らしい。

金目焼きの尻尾を口に押し込みつつ、向かうは飯沼観音。最後の特典を使って、観音堂の「お守り」をいただければ、閉館していた「銚子昭和ノスタルジー館」以外、四つの特典を無事制覇。

まだまだ時間に余裕もあるし、風も少し収まってきた。途中下車してこなかった「髪毛黒生」こと笠上黒生駅にも行ってみたいし、犬吠駅の写真館で見た、キャベツ畑を走るキャベツ色の銚子電鉄の姿も生で見たい。銚子電鉄は1駅ごとの間隔が短いことだし、沿線をたどって行ける所まで歩いてみよう。

でもその前に、もう一度観音駅へ。金目焼きもおいしかったけれど、甘たい焼きもやっぱり食べておこう。観音駅のたい焼き屋さんは、今年3月でいったん閉店。沿線のどこかに再び開店するのは、多分夏ごろになるそうだ。



銚子電鉄の1日乗車券「弧廻手形 Deluxe」



沿線を歩けば、キャベツ畑の中を走る電車の姿が見られる。



観音駅のたい焼き屋さんはすでに閉店。どこで再開するかは、お楽しみ。